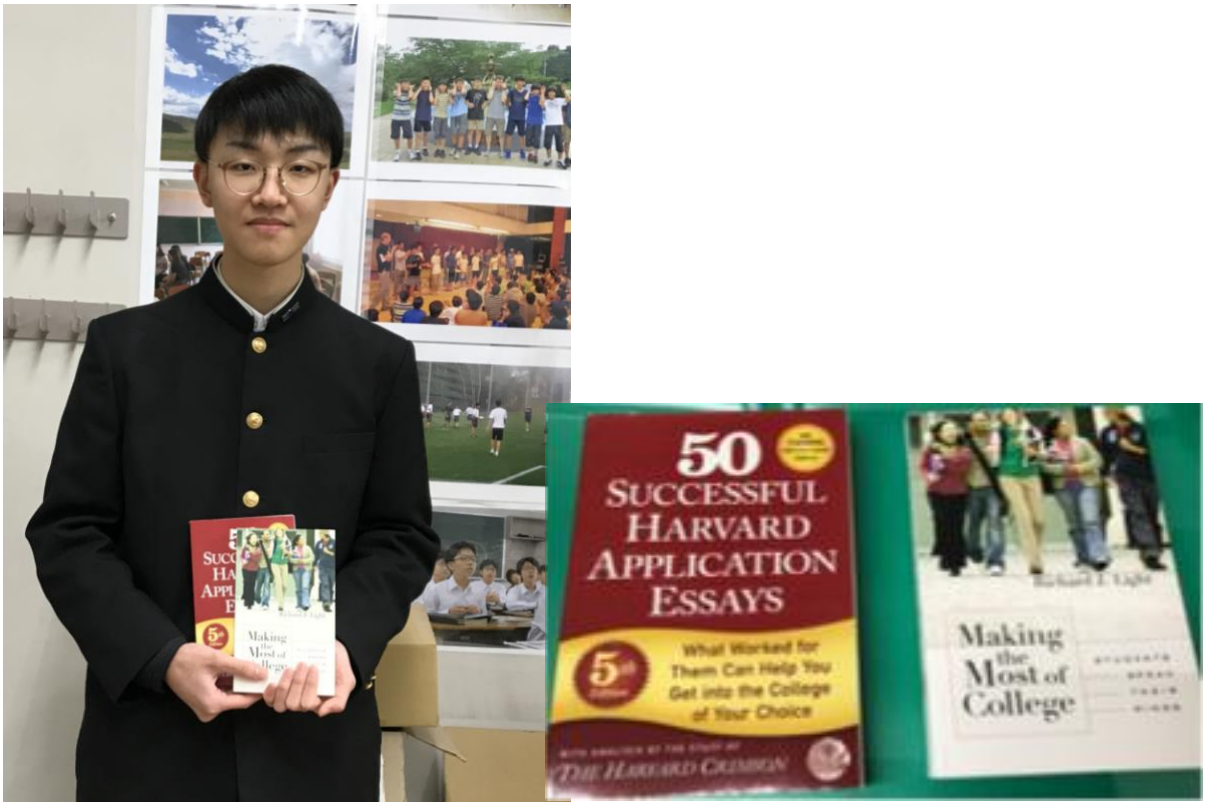
グローバル通信

2025 / 3 / 19

NO.149

２０２４年度 Harvard Prize Book 授与

Harvard Prize Book とはアメリカハーバード大学同窓会によって運営されているプログラムで、世界中で約 1,900 校が参加しています。この賞は高校２年生でハーバード大学を含むアメリカの大学へ進学することを検討し、学業・課外活動で実績を上げている生徒を対象に授与されるものです。今年度は高校２年２組の田口尋一朗君に授与されることになりました。田口君には終業式で賞状と英文図書２点が授与されました。田口君はグローバル部で模擬国連に取り組んでおり、前号グローバル通信にも寄稿してもらいました。昨年始まった JEIMUN（日本教育国際模擬国連大会）では昨日卒業した高３の生徒とペアを組み最優秀賞を獲得しました。今後も国際舞台での活躍を期待します。後輩生徒諸君も何も模擬国連に限定する必要はありません。自分の関心ある分野で国内での活動だけに満足せず海外とのつながりも視野に入れて後に続いてほしいと願っております。



カナダ短期留学帰国報告

冬季オリンピックが開催されたカルガリーも同じ州内に位置します。

１月６日から始まった本校カナダ短期留学に参加した高校１年生５名が３月１８日に無事帰国しました。５名はアルバータ州エドモントンで一人ずつ別々にホームステイしながらに３校の高校に分かれて通学しました。自動車整備に関する授業など日本にはないカリキュラムもあったようで楽しかったといった話も聞こえてきました。一方でちょうど生活や英語に慣れてきた頃の帰国となり、もう少し長く居たかったという声も。新年度になったら５名の感想を掲載する予定です。来年以降参加したいと思っている生徒諸君はぜひ参考になさって下さい。

３月１８日成田空港にて

アメリカ MIT 年収２０万ドル以下の世帯の学生は学費免除へ

やや古い情報となりますが、昨年１１月にマサチューセッツ工科大学が年収２０万ドル（１ドル 150 円とすると約３０００万円）以下の世帯出身の学生は２０２５年秋より学費を免除すると発表しました。

アメリカの大学に出願する手続きの際によく耳にする用語として "need-blind"という語があります。ここで言う need とは分かりやすく言えば入学に際して家庭で負担する必要のある学費等の金銭とご理解下さい。それに対して blind 盲目とはつまり、「学生側で奨学金等の手立てがあり学費を支払う経済的な後ろ盾があるか否かは大学側で合否を決める判断材料とはならない」ということになります。保護者の年収が３０００万円を下回る家庭といえばかなり高い割合で当てはまるはずですから学生側からすると大変ありがたい制度と言えます。逆の見方をするとこの制度の恩恵に預かろうと多くの優秀な学生が出願するでしょうから、合格を勝ち取る競争はこれまで以上に厳しくなることが容易に想像できます。どの大学でもこのような太っ腹な制度を運用できるわけではありません。大学の研究実績に応じて各方面から寄付金が集まる潤沢な運営ができる大学に限られることになります。

更に年収１０万ドルを下回る世帯に関して次のようなことも書かれていました。
And for the 50 percent of American families with income below $100,000, parents can expect to pay nothing at all toward the full cost of their students' MIT education, which includes tuition as well as housing, dining, fees, and an allowance for books and personal expenses.

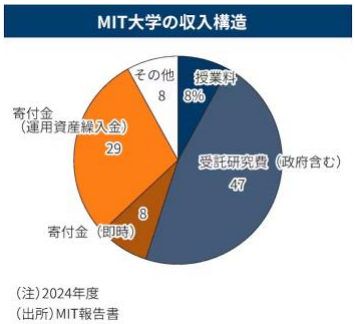
授業料だけでなく、住居・食費・諸経費が免除され、金額は明記されていませんが図書購入や個人的支出にも給付金が出るという内容です。ここまで至れり尽くせりで経済的な心配をせずに学生生活を送れるという夢のような話です。日本では大学在学中に貸与型の奨学金を借りてその返済に苦労している社会人が数多くいることはご存知だと思いますが、アメリカでも同様の問題が発生しています。MIT のような制度が広がれば学力はあっても経済的に進学が難しいという若者にとって朗報ですが、残念ながら現実にはそう簡単ではありません。

大学側の発表によると次のような記載もありました。
MIT is one of only nine colleges in the US that does not consider applicants' ability to pay as part of its admissions process and that meets the full demonstrated financial need for all undergraduates.
平たく言えば「MIT は学部入学志願者が学費を負担できる要件を満たしているか否かを入学者選抜過程において考慮に含めない全米９大学の一つである」ということで、まさに need-blind の考えを表明していることになります。学費を納入できない可能性のある学生を合格させることは通常なら大学にとっては大きなリスクを背負うことになってしまいますが、その心配をせずに優秀な学生を確保できるというのは大学・学生双方にとってまさに win-win ということになります。この英文記事には「９大学」がどこなのかには言及されておらず気になる所ですが、別ルートの情報で以下の大学だそうです。留学生を対象にしているのは７大学になるそうです。

Amherst College（アマースト大学）
Bowdoin College　（ボードウィン大学）
Dartmouth College　（ダートマス大学）
Harvard University　（ハーバード大学）
MIT　（マサチューセッツ工科大学）
Princeton University　（プリンストン大学）
Yale University　（イエール大学）
いずれも日本でもよく知られている大学ばかりですが、上述しました通り、潤沢な大学運営ができていることが背景にあります。

英語による引用サイト
https://news.mit.edu/2024/mit-tuition-undergraduates-family-income-1120

日本語による参考サイト
https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN21E7O0R21C24A1000000/



出典：日本経済新聞オンライン版（２０２４年１１月２２日）

今号が２０２４年度最後の発行となります。今年度もご愛読いただきありがとうございました。３学期終業式では数多くのクラブ・団体が全国レベルの活躍をして表彰されました。受賞分野は違えど国語・数学といった教科の枠組み、教室という物理的な空間を飛び越えて各人が自分の興味・関心を突き詰めていった結果だという共通項があるように感じます。本通信では「グローバル」という視点で不定期ながら本校生徒諸君の知的好奇心を刺激するような情報をお伝えしてきました。何か心に引っかかる記事が１つでもあったとすれば幸いです。

この春休みは本校主催の行事では、コロナ禍が明けて２回目となる中３アメリカ海外研修が実施されます。新年度になると高１・高２対象のイギリス海外研修、しばらく振りに再開される中３・高１対象のモンゴルスタディーツアーの準備が始まります。海外でこれまで味わったことのない経験をして自分の視野を広げるのもいいでしょうし、国内でも海外を疑似体験することはできます。近頃インバウンドで日本を訪問する海外からの観光客は定番の京都や北海道だけでなく日本人があまり意識しない盛岡や山口などを訪ねる人が多いと聞きます。来日前に相当調べ込んだ上でその土地ならではのアクティビティーを楽しんでいるようです。外国人の視点から得られる地域の魅力を掘り起こしてみるのも立派なグローバル体験と言えるのではないでしょうか。短い春休みですが、ただ与えられた課題をこなすだけでなく自分独自のこだわりを持った活動もメニューに加えて充実した時間をお過ごし下さい。